

表4-2-3 問題行動に対する姿勢と感情的冷淡さ

	男子			女子			主効果・交互作用
	とめない	どちらでも	とめる	とめない	どちらでも	とめる	
無免許	2.36(0.82)	2.50(0.69)	2.13(0.62)	2.22(0.77)	2.40(0.80)	2.05(0.65)	F(2,576)=9.51**(とめるか)
自転車盗	2.56(0.82)	2.31(0.73)	2.11(0.62)	2.34(0.81)	2.63(0.90)	2.05(0.64)	F(2,576)=14.05**(とめるか)
盗み	2.62(0.98)	2.48(0.57)	2.15(0.63)	2.38(0.86)	2.53(0.91)	2.09(0.67)	F(2,575)=9.89**(とめるか)
恐喝	2.49(0.84)	2.43(0.68)	2.18(0.69)	2.59(0.95)	2.48(0.90)	2.08(0.66)	F(2,575)=7.92**(とめるか)
暴行	2.43(0.86)	2.54(0.71)	2.15(0.67)	3.15(1.04)	2.29(0.75)	2.08(0.67)	F(2,570)=13.92**(とめるか)
薬物	2.35(0.84)	2.88(0.76)	2.20(0.68)	2.66(0.81)	2.49(0.96)	2.09(0.67)	F(2,574)=10.72**(とめるか)
軽援交	2.38(0.77)	2.42(0.68)	2.10(0.66)	2.23(0.77)	2.28(0.77)	2.06(0.65)	F(2,569)=8.43**(とめるか)
重援交	2.52(0.82)	2.32(0.69)	2.10(0.64)	2.35(0.79)	2.66(0.77)	2.04(0.65)	F(2,568)=15.878**(とめるか)
性強要	2.58(0.87)	2.34(0.64)	2.16(0.67)	2.25(0.74)	2.37(0.77)	2.07(0.67)	F(2,568)=6.52**(とめるか)

\*p<0.05, \*\*p<0.01

### 第3項 問題行動と学校に対する意識との関連

#### ①問題行動の実体験の有無と学校に対する意識

高校生の学校に対する意識と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の実体験（「ある」「ない」の2水準）との関連を検討するため、学校に対する意識尺度項目のうち、『学校適応—脱学校尺度得点』を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。『学校適応—脱学校尺度得点』の高さは、現実の学校生活への適応度の高さを意味している。有意な結果のあらわれたものを表4-3-1に示す。

問題行動の実体験の有無について主効果による有意差があった問題行動は、無免許運転、自転車・バイク盗み、盗み、暴行、薬物・ドラッグの5種類であった。それらのすべての問題行動について、実体験が「ない」者の方が「ある」者よりも学校に対する意識尺度得点が高かった。すなわち、これらの問題行動の実体験がない者は、実体験がある者に比べて、現実の学校生活への適応が高いことが示された。

表4-3-1 問題行動の実体験の有無と学校に対する意識

	男子		女子		主効果・交互作用
	ない	ある	ない	ある	
無免許	3.09(0.75)	2.67(0.83)	3.01(0.75)	2.65(0.73)	F(1,567)=11.74**(体験)
自転車盗	3.10(0.78)	2.64(0.63)	3.02(0.74)	2.46(0.81)	F(1,567)=18.93**(体験)
盗み	3.05(0.79)	2.92(0.75)	3.04(0.74)	2.63(0.72)	F(1,566)=9.33**(体験)
暴行	3.13(0.79)	2.86(0.74)	3.01(0.76)	2.89(0.68)	F(1,567)=4.94*(体験)
薬物	3.04(0.78)	2.59(0.72)	3.00(0.75)	2.18(0.44)	F(1,567)=6.30*(体験)

\*p<0.05, \*\*p<0.01

## ②問題行動に対する意識と学校に対する意識

高校生の学校に対する意識と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の「いけなさ」（「いい」「どちらでもない」「いけない」の3水準）との関連を検討するため、学校に対する意識尺度項目のうち、『学校適応—脱学校尺度得点』を従属変数とした2×3の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-3-2に示す。

問題行動の「いけなさ」の主効果による有意差のあったものは、飲酒、無免許運転、自転車・バイク盗み、盗み、暴行、薬物・ドラッグ、重度の援助交際、性行為の強要の8種類の問題行動であった。これらの問題行動を「いけない」と思う者の方が「いい」と思う者より学校に対する意識尺度得点が高かった。従ってこれらの問題行動をいけないことであると思っている者は、いけないこととは思っていない者に比べて、より現実の学校生活への適応が高いことが示された。

表4-3-2 問題行動に対する意識と学校に対する意識

	男子			女子			主効果・交互作用
	いい	どちらでもない	いけない	いい	どちらでもない	いけない	
飲酒	2.95(0.79)	3.14(0.65)	3.20(0.81)	2.96(0.76)	2.80(0.73)	3.22(0.72)	F(2,565)=5.49**(いけなさ)
無免許	2.67(0.63)	2.85(0.81)	3.12(0.78)	2.62(0.94)	2.76(0.69)	3.04(0.74)	F(2,564)=9.97**(いけなさ)
自転車盗	2.55(0.62)	2.81(0.72)	3.07(0.78)	2.67(0.97)	2.48(0.56)	3.01(0.75)	F(2,564)=5.63**(いけなさ)
盗み	2.81(0.40)	2.74(0.93)	3.05(0.79)	2.51(1.27)	2.63(0.67)	3.01(0.75)	F(2,565)=3.05*(いけなさ)
暴行	2.87(0.65)	2.87(0.65)	3.07(0.82)	3.17(0.62)	2.61(0.68)	3.02(0.75)	F(2,563)=3.86*(いけなさ)
薬物	2.81(0.36)	2.83(0.89)	3.06(0.81)	2.87(0.95)	2.44(0.62)	3.01(0.75)	F(2,565)=3.35*(いけなさ)
重援交	2.80(0.76)	2.86(0.65)	3.14(0.81)	2.65(0.95)	2.88(0.77)	3.03(0.73)	F(2,560)=6.65**(いけなさ)
性強要	2.50(0.65)	2.78(0.63)	3.09(0.79)	2.90(1.19)	2.68(0.70)	3.03(0.74)	F(2,560)=5.43**(いけなさ)

\*p<0.05, \*\*p<0.01

## ③問題行動に対する姿勢と学校に対する意識

高校生の学校に対する意識と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動を「とめるか」（「とめない」「どちらでもない」「とめる」の3水準）との関連を検討するため、学校に対する意識尺度項目のうち『学校適応—脱学校尺度得点』を従属変数とした2×3の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-3-3に示す。

問題行動を「とめるか」の主効果による有意差があったものは、無免許運転、自転車・バイク盗み、盗み、恐喝、暴行、薬物・ドラッグ、軽度の援助交際、重度の援助交際、性行為の強要の9種類であった。これらの問題行動を「止める」と思う者の方が「とめない」と思っている者よりも学校に対する意識尺度得点が高かった。

従って、これらの問題行動を友人がしているのを見たとき、友人をとめると思っている者の方が、とめないと思っている者に比べてより現実の学校生活への適応が高いことが示された。

表4-3-3 問題行動に対する姿勢と学校に対する意識

	男子			女子			主効果・交互作用
	とめない	どちらでも	とめる	とめない	どちらでも	とめる	
無免許	2.78(0.72)	3.01(0.61)	3.18(0.81)	2.84(0.89)	2.71(0.62)	3.07(0.73)	F(2, 565)=10.07**(とめるか)
自転車盗	2.72(0.82)	2.95(0.58)	3.16(0.77)	2.40(0.84)	2.68(0.69)	3.07(0.72)	F(2,565)=17.88**(とめるか)
盗み	2.73(0.86)	2.81(0.61)	3.11(0.76)	2.28(0.73)	2.69(0.68)	3.04(0.74)	F(2,565)=12.23**(とめるか)
恐喝	2.80(0.86)	2.97(0.65)	3.07(0.78)	2.77(0.68)	2.60(0.72)	3.02(0.75)	F(2,565)=3.42*(とめるか)
暴行	2.82(0.78)	2.89(0.73)	3.09(0.78)	2.74(0.54)	2.74(0.67)	3.02(0.76)	F(2,561)=3.99*(とめるか)
薬物	2.98(0.66)	2.72(0.86)	3.05(0.79)	2.60(1.00)	2.58(0.85)	3.02(0.73)	F(2,565)=4.50*(とめるか)
軽援交	2.79(0.77)	3.03(0.68)	3.17(0.80)	2.82(0.83)	3.06(0.77)	3.01(0.73)	F(2,559)=5.84**(とめるか)
重援交	2.84(0.84)	3.00(0.69)	3.11(0.77)	2.72(0.99)	2.83(0.79)	3.03(0.73)	F(2,559)=4.01*(とめるか)
性強要	2.71(0.84)	2.97(0.63)	3.09(0.78)	2.65(0.88)	2.73(0.70)	3.05(0.74)	F(2,557)=6.534**(とめるか)

\*p<0.05, \*\*p<0.01

#### 第4項 問題行動と学校での交友関係に対する意識との関連

##### ①問題行動の実体験の有無と学校での交友関係に対する意識

高校生の学校での交友関係に対する意識と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の実体験（「ある」「ない」の2水準）との関連を検討するため、学校に対する意識尺度項目のうち、『仲間志向－孤立志向得点』を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。『仲間志向－孤立志向得点』が高いことは、仲間との連帯志向が強いことを示す。有意な結果のあらわれたものを表4-4-1に示す。

問題行動の実体験の有無についての主効果による有意差のあった問題行動は、飲酒、盗み、恐喝、薬物・ドラッグの4種類であった。飲酒については、実体験の「ない」者の方が「ある」ものよりも「仲間志向－孤立志向尺度得点」が高かった。一方、盗み、恐喝、薬物・ドラッグについては、実体験が「ある」者の方が「ない」者よりも「仲間志向－孤立志向尺度得点」が高かった。

従って、飲酒については、飲酒したことがない者の方がある者よりも仲間との連帯志向が強いことが示された。盗み、恐喝・薬物・ドラッグの経験がある者の方がいない者に比べて仲間との連帯志向が強いことが示された。

表4-4-1 問題行動の実体験の有無と学校での交友関係に対する意識

	男子		女子		主効果・交互作用
	ない	ある	ない	ある	
飲酒	2.29(0.75)	2.07(0.62)	2.15(0.59)	2.05(0.62)	F(1,577)=7.05**(体験)
盗み	2.06(0.66)	2.34(0.61)	2.05(0.61)	2.30(0.60)	F(1,576)=12.48**(体験)
恐喝	2.07(0.62)	2.91(0.70)	2.08(0.61)	2.17(1.02)	F(1,577)=4.00*(体験)
薬物	2.11(0.65)	2.41(0.67)	2.07(0.61)	2.89(0.89)	F(1,577)=7.42**(体験)

\*p<0.05, \*\*p<0.01

### ②問題行動に対する意識と学校での交友関係に対する意識

高校生の学校での交友関係に対する意識と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の「いけなさ」（「いい」「どちらでもない」「いけない」の3水準）との関連を検討するため、学校に対する意識尺度項目のうち、『仲間志向－孤立志向尺度得点』を従属変数とした2×3の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-4-2に示す。

問題行動の「いけなさ」の主効果による有意差があったのは、無免許運転、自転車・バイク盗み、盗み、恐喝、暴行、薬物・ドラッグ、軽度の援助交際、重度の援助交際、性行為の強要の9種類の問題行動であった。すべての問題行動について「いい」と思っている者の方が「いけない」と思っている者よりも仲間志向－孤立志向尺度得点が高かった。従ってこれらの問題行動に対して「いい」と思っている者の方が、仲間との連帯志向が強いことが示された。

表4-4-2 問題行動に対する意識と学校での交友関係に対する意識

	男子			女子			主効果・交互作用
	いい	どちらでもない	いけない	いい	どちらでもない	いけない	
無免許	2.26(0.89)	2.45(0.48)	2.05(0.59)	2.41(0.68)	2.11(0.77)	2.05(0.59)	F(2,574)=7.08**(いけなさ)
自転車盗	2.40(0.90)	2.56(0.75)	2.06(0.61)	2.24(0.54)	2.44(0.87)	2.07(0.60)	F(2,574)=7.29**(いけなさ)
盗み	2.32(0.72)	2.49(0.67)	2.09(0.64)	2.07(0.32)	2.70(0.61)	2.06(0.60)	F(2,575)=7.82**(いけなさ)
恐喝	2.30(0.44)	2.50(1.00)	2.09(0.63)	2.25(0.70)	3.42(0.88)	2.06(0.59)	F(2,575)=12.76**(いけな)
暴行	2.48(0.62)	2.22(0.84)	2.04(0.60)	2.80(0.69)	2.52(0.67)	2.03(0.59)	F(2,573)=15.12**(いけな)
薬物	2.47(0.74)	2.34(0.57)	2.06(0.63)	2.85(0.73)	2.64(0.91)	2.05(0.58)	F(2,575)=16.19**(いけな)
軽援交	2.19(0.70)	2.16(0.55)	2.06(0.66)	2.23(0.68)	2.25(0.67)	1.99(0.56)	F(2,572)=6.05**(いけなさ)
重援交	2.29(0.69)	2.19(0.67)	2.04(0.63)	2.43(0.79)	2.17(0.58)	2.05(0.60)	F(2,571)=6.78**(いけなさ)
性強要	2.60(0.75)	2.17(0.73)	2.07(0.62)	2.26(0.68)	2.24(0.69)	2.06(0.60)	F(2,570)=3.92*(いけなさ)

\*p<0.05, \*\*p<0.01

### ③問題行動に対する姿勢と学校での交友関係に対する意識

高校生の学校での交友関係に対する意識と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動を「とめるか」（「とめない」「どちらでもない」「とめる」の3水準）との関連を検討するため、学校に対する意識尺度項目のうち、『仲間志向－孤立志向尺度得点』を従属変数とした2×3の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-3-3に示す。

問題行動を「とめるか」の主効果による有意差があった問題行動は、飲酒、自転車・バイク盗み、盗み、恐喝、暴行、薬物・ドラッグ軽度の援助交際、重度の援助交際、性行為の強要の9種類であった。それらの問題行動を「とめない」「どちらでもない」と思っている者の方が「とめる」と思っている者に比べて、仲間志向－孤立志向尺度得点が高かった。従って、これらの問題行動をしている友人を見ても「とめない」と思っている者の方が、「とめる」と思っている者よりも仲間との連帯志向が強いことが示された。

表4-3-3 問題行動に対する姿勢と学校での交友関係に対する意識

	男子			女子			主効果・交互作用
	とめない	どちらでも	とめる	とめない	どちらでも	とめる	
飲酒	2.10(0.63)	2.39(0.68)	2.01(0.82)	2.02(0.60)	2.02(0.60)	2.29(0.59)	F(2,575)=4.90**(とめるか)
自転車盗	2.27(0.72)	2.27(0.75)	2.02(0.59)	2.13(0.69)	2.33(0.85)	2.05(0.57)	F(2,575)=5.70**(とめるか)
盗み	2.50(0.67)	2.32(0.71)	2.01(0.61)	2.44(0.54)	2.42(0.87)	2.05(0.59)	F(2,574)=13.50**(とめるか)
恐喝	2.42(0.59)	2.36(0.78)	2.02(0.62)	2.21(0.86)	2.48(0.78)	2.05(0.58)	F(2,574)=9.40**(とめるか)
暴行	2.38(0.65)	2.31(0.73)	2.02(0.61)	2.93(0.82)	2.31(0.65)	2.04(0.59)	F(2,571)=15.52**(とめるか)
薬物	2.49(0.75)	2.39(0.59)	2.05(0.63)	2.69(0.80)	2.15(0.85)	2.06(0.58)	F(2,574)=11.57**(とめるか)
軽援交	2.24(0.69)	2.21(0.60)	2.00(0.63)	2.24(0.69)	2.12(0.65)	2.04(0.58)	F(2,569)=6.15**(とめるか)
重援交	2.33(0.72)	2.20(0.62)	1.99(0.61)	2.39(0.78)	2.43(0.59)	2.02(0.59)	F(2,569)=13.27**(とめるか)
性強要	2.47(0.68)	2.12(0.58)	2.04(0.64)	2.37(0.75)	2.20(0.67)	2.05(0.59)	F(2,567)=7.633**(とめるか)

\*p<0.05, \*\*p<0.01

#### 第5項 問題行動と学校での教師との関係性との関連

##### ①問題行動の実体験の有無と教師との関係性

高校生の学校での教師との関係性に対する意識と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の実体験（「ある」「ない」の2水準）との関連を検討するため、学校生活適応感尺度のうち、『教師との関係尺度得点』を従属変数とした2×2の2要因分散分析を行った。『教師との関係尺度得点』が高いほど、教師と良い関係をもっていると感じていることを意味している。有意な結果のあらわれたものを表4-5-1に示す。

無免許運転と性行為の強要について、交互作用がみられた。男子では無免許運転と性行為の強要の実体験がない者の方がある者よりも教師との関係尺度得点が高く、女子ではこれらの問題行動の実体験がある者の方がない者よりも教師との関係尺度得点が高かった。

従って、無免許運転と性行為を強要したことがない男子と、無免許運転と性行為を強要したことがある女子は、それぞれ教師と良い関係をもっていると感じていることが示された。

表4-5-1 問題行動の実体験の有無と教師との関係性

	男子		女子		主効果・交互作用
	ない	ある	ない	ある	
無免許	2.54(0.91)	2.30(0.89)	2.51(0.88)	2.82(0.80)	F(1,575)=4.33*(交互作用)
性強要	2.51(0.91)	2.32(0.72)	2.52(0.87)	3.56(1.26)	F(1,570)=4.64*(交互作用)

\*p<0.05, \*\*p<0.01

##### ②問題行動に対する意識と教師との関係性

高校生の学校での教師との関係性と性別（「男子」「女子」の2水準）、問題行動の「い

けなさ」(「いい」「どちらでもない」「いけない」の3水準)との関連を検討するため、学校生活適応感尺度のうち、『教師との関係尺度得点』を従属変数とした2×3の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-5-2に示す。

問題行動の「いけなさ」の主効果による有意差があったのは、重度の援助交際であった。重度の援助交際を「いけない」と思っている者の方が、「いい」と思っている者よりも、教師との関係尺度得点が高かった。従って、重度の援助交際は「いけない」と思っている者は、「いい」と思っている者よりも、教師と良い関係がもてていると感じてることが示された。

また、飲酒と恐喝については交互作用がみられた。恐喝については、特に女子で「いい」と思っている者が他の者よりも教師との関係尺度が高かった。恐喝について「いい」と考えている女子は、教師と良い関係がもてていると感じていることが示された。

表4-5-2 問題行動に対する意識と教師との関係性

	男子			女子			主効果・交互作用
	いい	どちらでもない	いけない	いい	どちらでもない	いけない	
飲酒	2.39(0.93)	2.76(0.74)	2.73(0.87)	2.56(0.87)	2.78(0.89)	2.64(0.89)	F(2,573)=4.77**(交互作用)
恐喝	2.22(1.10)	2.71(0.79)	2.50(0.91)	3.54(1.07)	1.79(0.95)	2.52(0.87)	F(2,572)=4.83**(交互作用)
重援交	2.37(0.98)	2.27(0.74)	2.59(0.89)	2.56(1.17)	2.35(0.93)	2.55(0.85)	F(2,572)=3.23*(いけなさ)

\*p<0.05, \*\*p<0.01

### ③問題行動に対する姿勢と教師との関係性

高校生の学校での教師との関係性と性別(「男子」「女子」の2水準)、問題行動を「とめるか」(「とめない」「どちらでもない」「とめる」の3水準)との関連を検討するため、学校生活適応感尺度のうち『教師との関係尺度得点』を従属変数とした2×3の2要因分散分析を行った。その中で有意な結果のあらわれたものを表4-5-3に示す。

問題行動を「とめるか」の主効果による有意差があったのは、飲酒、自転車・バイク盗み、軽度の援助交際の3種類であった。これらの問題行動について「とめる」と思っている者の方が「とめない」と思っている者よりも教師との関係尺度得点が高かった。従って、これらの問題行動を友人がしているのを見た時に、友人をとめると思っている者の方が、教師と良い関係がもてていると感じていることが示された。

表4-5-3 問題行動に対する姿勢と教師との関係性

	男子			女子			主効果・交互作用
	とめない	どちらでもない	とめる	とめない	どちらでもない	とめる	
飲酒	2.44(0.91)	2.83(0.50)	2.75(1.06)	2.49(0.88)	2.59(0.87)	2.60(0.90)	F(2,573)=3.07*(とめるか)
自転車盗	2.37(1.01)	2.40(0.69)	2.58(0.90)	2.22(0.77)	2.31(0.97)	2.57(0.88)	F(2,573)=3.87*(とめるか)
軽援交	2.29(0.95)	2.47(0.89)	2.64(0.84)	2.29(0.95)	2.58(0.96)	2.56(0.84)	F(2,567)=5.22**(とめるか)

\*p<0.05, \*\*p<0.01